

#KVA

知識を高め、徳性を養い、技術を磨き続けるために

学院だより 2023.4 No.153

CONTENTS

新たな歴史的文脈の中で
教育と学院のこれからを考える ▶ 2

座談会 ▶ 4

創立100周年を迎えるにあたり
今後の家政学院について

大江スミ先生を振り返る・
家政学院の年表 ▶ 10

家政学院のいま ▶ 12

TOKYO KASEIGAKUIN NEWS

キャンパスギャラリー ▶ 18

卒業生インタビュー ▶ 20

近隣のお店紹介 ▶ 21

インフォメーション ▶ 22

入試・オープンキャンパス・
校内説明会 日程 ▶ 23

創立100周年記念募金 ▶ 24

Knowledge
Virtue
Art

100th
Anniversary



新たな歴史的文脈の中で 教育と学院のこれからを考える

学校法人東京家政学院理事長 吉武博通

民間企業での実務経験を経て、大学で仕事を始めてから、ちょうど20年が経ちます。この間、講演などで訪れた大学は全国約120校になり、『カレッジマネジメント』という雑誌に「大学を強くする」という連載も書いてきました。その中で、どのような話をしたり書いたりしているのか、その一部を紹介させていただきながら、皆さまと一緒に教育と学院のこれからを考えてみたいと思います。

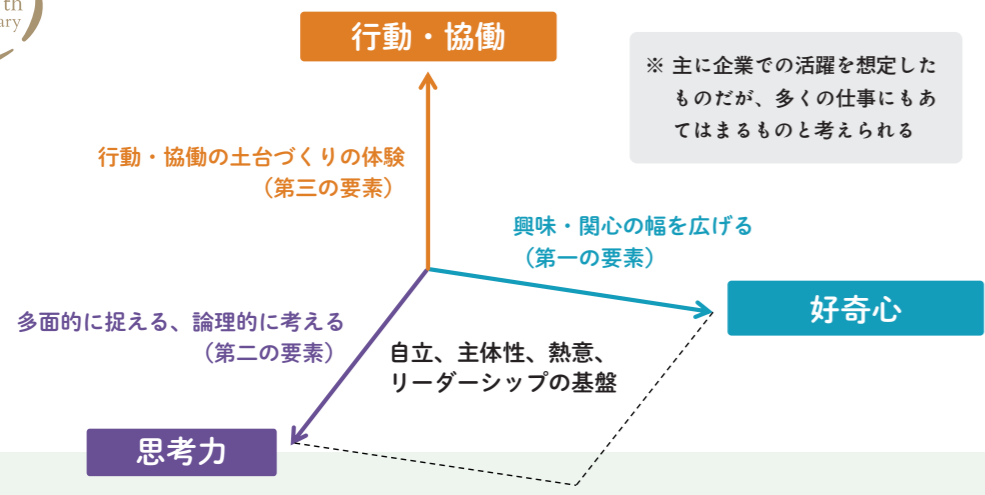


図1:仕事との関係において大学教育が何を重視すべきか(概念図)
(吉武博通「社会に支持される大学であるために」『カレッジマネジメント』No.194/2015.9-10より)

18歳人口の減少が加速するなか、いよいよ大学も淘汰・再編が避けられない時代に入ってきました。このような過酷な競争化において生き残るために何が必要か。ここでは「ブランド」に絞って述べてみたいと思います。

考えてみれば大学ほどブランドがもの言う世界はないように思います。ビジネスの世界であれば、優れた商品やサービスを生み出した企業が一気にブランド価値を高めるということが起こり得ます。しかし、大学の世界では一度出来上がってしまった評価を覆すのは容易ではありません。地方の国立大学からの要望を受けて国立

新たな東京家政学院ブランドをつくる

最近の採用では「ストレス耐性」が重視されると聞いたことがあります。ストレスにどう耐えるかを問うよりも、様々な事柄に興味を持ち、知ろうとし、やってみようと思う態度こそ問われるべきだと思えます。私は、「面白さを知る力」の土台は、図1の好奇心と思考力の2軸で囲まれた面積で示された部分であり、それを広げることが大学や学校の教育の最も大きな役割だと考えています。

日到他界されたのは残念です。アクティブ・ラーニングの結果身につく力かもしれませんが、私自身が、学生に特に身につけてほしいと考えているのが「面白さを知る力」です。それを表したのが左の図1です。

社会に出て、どのような職業に就いても、ワクワクするようなことはむしろ少なく、単調な仕事の繰り返しが続いたり、気乗りしない仕事を指示されたりということの方が多いかもしれません。そのような時でも何か新しい発見はないか、面白いものはないかと目を輝かせて取り組むことは大切だと思います。

同じ事象を目の当たりにしても、気にも留めない人と面白いと興味を持つ人がいます。この小さな差が長い人生において大きな差になって現れてきます。ここでいう差とは地位や金銭ではなく、心の豊かさや人間的豊かさの差を意味します。

最近の採用では「ストレス耐性」が重視されると聞いたことがあります。ストレスにどう耐えるかを問うよりも、様々な事柄に興味を持ち、知ろうとし、やってみようと思う態度こそ問われるべきだと思えます。私は、「面白さを知る力」の土台は、図1の好奇心と思考力の2軸で囲まれた面積で示された部分であり、それを広げることが大学や学校の教育の最も大きな役割だと考えています。

激動の時代にどう向き合うか

まずは、下の表1をご覧ください。1995年から2020年までの統計データを5年刻みで並べた表ですが、わずか25年間で日本に劇的な変化が起きていることがわかります。

18歳人口は約120万人の時期が10年ほど続きましたが、再び減少に転じ、2021年時点の推計値は113万人とされています。直近のピークとされている1992年の205万人から45%もの減少となります。ちなみに2022年の出生数は初めて80万人を下回ったと報じられています。高等教育機関にとって極めて厳しい数字であるだけでなく、日本の社会を誰が支えるのかという極めて深刻な問題が現実になりつつあります。

また、わずか25年の間に、15歳から64歳までの生産年齢人口が1200万人減少し、65歳以上人口が倍増していることもわかります。当然、社会保障給付費は倍増、国・地方の借金の増加に歯止めがかかりません。せめて、国内総生産(GDP)が増加してくれば良いのですが、名目GDPはこの25年間500兆円台の前半で低迷し、世界における日本のシェアも17%から6%を切るまでに低下。豊かさの指標とされている1人当たり名目GDPもOECD内順位を3位から19位まで下がっています。

雇用者報酬にいたっては、この25年間ほとんど増えていません。非正規雇用の割合が5人に1人から5人に2人に近づきつつあるのが最大の理由と思われませんが、その背景とし第3次産業に従事する人の割合が増えていることが挙げられます。サービス業の生産性をどう上げるかは日本経済に

面白さを知る力は生きる力

とって大きなテーマです。世界に目を転じると、1989年に東西冷戦の終結が宣言され、世界は平和に向かうと期待されましたが、ここに来て世界の安全を脅かす様々な出来事が起き、緊張が高まってきたことはご承知の通りです。さらに地球規模で考えると、温暖化問題は待ったなしの状況になってきました。

創立100周年という記念すべき年の『学院だより』にはふさわしくない話題かもしれませんが、たとえ不都合な真実であってもそれを直視することはとても大切です。目を背けることは問題の先送りにつながり、事態はより深刻になってしまいます。このことは、世界や国も、社会や組織や個人もみな同じです。

学生・生徒の将来には、多くの疑問が待ち構えています。だからこそ私たち教育機関に身を置く者は、全力でその成長を後押ししていかねばなりません。

自国の将来に対して「明るい」と回答した若者の割合は、米、独、英、仏などがいずれも50%を上回るのに対して、日本は31%にとどまるとの調査結果もあります。未来に不安や閉塞感があるのは当然です。私たちもそれらの疑問を解決するための方法を見出せている訳ではありません。「学生・生徒と共に考える」ことが大切なのだと思います。そのために近年重視されているのが「アクティブ・ラーニング」です。

表1:統計数字で見る約25年間(1995年~2020年)の変化

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	出典
18歳人口(万人)	177	151	137	122	120	117	文科省資料
大学進学率(%)	32.1	39.7	44.2	50.9	51.5	54.4	「学校基本調査」文科省
生産年齢人口(万人)	8726	8638	8442	8173	7728	7509	「人口推計」総務省統計局
65歳以上人口(万人)	1828	2204	2567	2948	3387	3603	同上
社会保障給付費(兆円)	65.0	78.4	88.9	105.4	116.8	132.2	厚生省資料
国・地方長期債務残高(兆円)	410	646	758	862	1033	1165	財務省資料
名目GDP(兆円)	525	538	534	505	541	536	「国民経済計算」内閣府
▶世界における日本の割合(%)	(17.2)	(14.1)	(10.1)	(8.7)	(5.9)	(5.9)	同上
▶1人当たり名目GDPの順位	3位	4位	13位	13位	20位	19位	同上(OECD内順位)
雇用者報酬(兆円)	267	270	262	251	262	284	「国民経済計算」内閣府
第3次産業就業者比率(%)	61.4	64.2	68.6	71.1	72.3	73.8	「労働力調査」総務省
非正規雇用の割合(%)	20.9	26.0	32.4	34.4	37.5	37.2	同上
対外直接投資残高(10億ドル)	259	278	388	830	1,261	1,980	JETRO資料
在留外国人(万人)	130	159	191	209	223	289	出入国在留管理庁(6月末)

日本大学文理学部の渡部淳教授は、「情報の進展とともに、学習内容はますます速いスピードで陳腐化していく。それだけに、これからの若者には、「自立的学習者」——学び方を身につけ、自ら知を更新していくことのできる新しい教養人——であることが求められる」と述べています(渡部淳「アクティブ・ラーニングとは何か」岩波書店、2020より)。氏がこの著書の発表日前

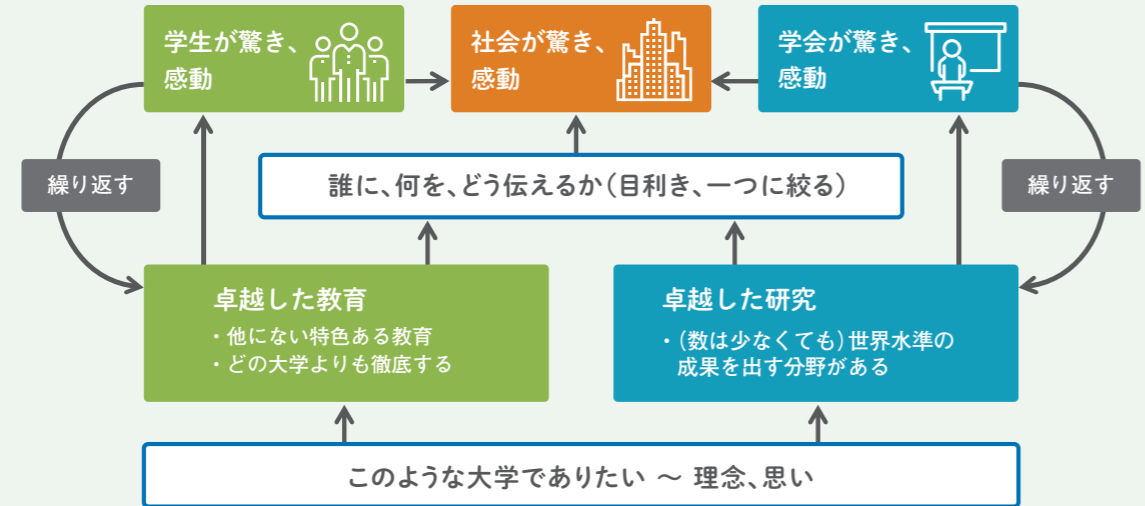


図2:大学におけるブランド構築の概念図
吉武博通「大学におけるブランド構築の本質を考える」『カレッジマネジメント』No.189/2014.11-12より
(2014.9.12国立大学協会マネジメントセミナーにおける片平秀貴氏と河野透氏の講演内容に基づき作成)

私は、理事長就任以来の3年弱「東京家政学院とは何者なのか」を自問自答し続け、機会あるごとに、教職員に対して、同じような趣旨の問いかけをしています。KVA精神にしても、それを現在あるいは未来に向けてどう意味づけるか、その精神を身につけるために如何なる教育を行うべきか、身についたかどうかはどうすれば評価できるのか。そのような根源的な問いに一つ一つ誠実に向き合う必要があります。

家政学をより大きな歴史的文脈の中で見つめ直してみれば、その地平をはるか彼方

まで広がります。今の若者が置かれた状況を深く理解し、その成長を心から後押ししようと考えれば、東京家政学院の社会的意義は飛躍的に高まります。その志と行動が求められているのだと思います。

座談会



今後の家政学院について

2023年に創立100周年を迎えた本学院は、次世代に向けたさまざまな取り組みを始めています。「よりよい教育」「よりよい人生」のために学院ができること、しなくてはならないことを共有し、実践に向けて動き出すために、中学、高校、大学の関係者が一同に集い、各自の考えを語り合いました。(2023年1月31日 会議室にて)

海野 今日は、中高大の教職員がともに語り合える場ということで、未来を想像しながら楽しい意見交換ができると思います。本学院は今から100年前にあたる大正12年、まだ女性に選挙権がなかった時代に創立されました。そこから昭和、平成を経て令和という時代を迎え、私たちが経験してきた数十年だけでも社会は大きく変わっています。変わっていく時代の中にあつて、みなさんは、過去のご自身と比べた今の学生・生徒たちの印象をどのように感じているのでしょうか。

石網 私は生活デザイン学科で大学生を教えています。時代の流れが速く社会の変化が激しいので、今の学生たちはそれに適応していかなければならない大変さがあるように見えます。私たちの頃は、20年先も社会が大きく変わることはないと思いましたが、学生生活を送っていましたから、そこは大きく違いますね。

海野 大きな変化を受けつつも、今の学生は自分の中で消化しながら過ごすが上手ですね。中学生はいかがですか。

有益 私たちの頃は知識を詰め込む教育でしたので、その点は大きく変わり、座学だけでない、体験型の学びの機会が増えていると感じます。そのため、日々の授業の中では「勉強」よりも「学び」を大切にしようと、心に留めています。教室のなかだけで学ぶのではなく、クラブ活動や他の学年との共同学習、地域で実施するプログラムも含めて大事にしようという事です。

海野 「学び」という言葉は大学でも使いますが、まさしくKVA精神の「V」が意味する、「人間性を養うこと」を意識して使われているのですか。

山形 高校では、個性的でエネルギーギンシユな生徒が多かった私たちの頃と比べると、少しおとなしい生徒が多いように思います。周りの評価や他人の目を気にしてしまうのかもしれない。だからこそ知識偏重ではない、これからの時代、これからの生徒に即した学力観を大切に、教育をソフトさせていかなければならないと思っています。

高野 今の生徒・学生はよく勉強しているという印象があります。大学受験でも総合型選抜が充実してきて、中高生は早め目標設定をする必要が出てきました。目標を設定すれば学びに向かう姿勢も変わってきますし、大学に入学した後も少人数教育が私の時代より増えているので、集団講義で後ろの席に座ってなんとなく聞いているという姿勢ではないですね。私は企画広報を担当しているので、その視点からみると、進学先の学部や職業も含めた目標設定が早まっていると感じます。

社会の変化のスピードが速い時代に、変化に対応した教育や指導が大切

海野 現在の学生・生徒の変化を感じ取り、それを教育や進路指導にも反映していくのはとても重要なことだと思いますが、中高の先生方は、どのようなタイミングで生徒の目標設定や進路指導を始めているのですか。

山形 土台づくりは中1です。近隣の商店や企業を訪問してインタビューするなどし、将来の職業観を養えるようなプログラムを、中1から実施しています。プログラムを終えると生徒一人ひとりの顔つきが変わるので、非常に多くの学びを得ているのではないかと思います。そこから働くとはどういうことなのかを段階的に考え、大人と触れ合って体験を積みながら、高校での進路選択につなげています。

海野 地域での実体験から得たものが職業観につながり、進路選択の土台をつくっていくということですね。大学では今ちょうど、令和7年春に町田キャンパスに開設を予定している新学部について検討しているのですが、そこでも地域とのつながりを重視しています。町田キャンパスは町田市・八王子市・相模原市という3つの大きな市に囲まれているので、その特徴を活かして地域と連携し、社会に学生を送り出していこうという構想があります。それと共通するプログラムを中学校から実施しているのは素晴らしいですね。

有益 先輩の生の声を知るために、中学生が高3生や大学生から話を聞いたり、地域社会で活躍している人と一緒に何か行動を起こしていくことも増えています。教職員のほかにも、生徒からみて身近な大人と触れ合うことで、何かを学んだり気づいたりできる場面を作りたいと思っています。

山形 今、高校で行っている「顔が見える進路指導」も成果を生みつつあります。これは生徒の数だけ進路指導があるという考えに基づき、生徒一人ひとりの将来の夢を教員がしっかり受けとめ、どうアプローチすべきかをオーダーメイドで指導するものです。1人の生徒に対して複数の教員でしっかりとフォローしていくので、生徒にも保護者にも非常に好評で





座談会
出席者



東京家政学院大学
人間栄養学部人間栄養学科
海野 知紀 教授
(ファシリテーター)
うんの ともり



東京家政学院大学
現代生活学部生活デザイン学科
石網 史子 准教授
いづな ふみこ



東京家政学院大学
現代生活学部現代家政学科
木村 文香 准教授
きむら ふみか

す。卒業を控えた高3生の保護者へのアンケートでも、本校への満足度は高く、それはお子さんが中高の6年間または高校の3年間ですっかり成長できたという実感を持てるからではないかと思えます。

学生・生徒たちが失敗や成功を繰り返しながら、本人の自信につなげられる環境づくりが必要

海野 成長を実感することはとても大切です。では、学生・生徒が自信を持って人生を歩んでいくために、われわれ中高大の教職員ができることを考えてみたいと思います。それが本学院の強みになるかもしれません。

高野 学生に成功体験を与えることが、私たちの使命の一つであると思っています。成功によって自己肯定感を得て自信がつけば、次のチャレンジがしやすくなるでしょうし、学生時代にチャレンジを重ねることで、社会に出ても自ら問題提起し、解決しようとするでしょう。そういった意味では、本学院はST比が低い、

つまり専任教員1人がフォローする学生の数が全国で見ても少ないほうなので、きめ細やかなサポートができる体制があります。一人ひとりの個性を把握した上で学生に誠実に寄り添っていきける点は本学の強みだと思います。

海野 そうですね。学生・生徒の個性を尊重した教育は、本学院を語るキーワードと言ってもよく、ST比が低くて学生・生徒との距離が近いのは事実ですが、数値に満足するのではなく、しっかりと学生・生徒と向き合って、学院で学ぶ人の満足度を上げることが大切だというのは強調しておきたいと思っています。

齊藤 若い世代には成功体験と併せて失敗することも必要なのかな、と思います。構想中の町田キャンパスの新学期では、学生が地域に出て行き、フィールドワークの中で失敗や成功を繰り返しながら学びを深められるプログラムを導入できないか検討しているのですが、そこでも一人ひとりに合わせてサポートしていきたいと思っています。

海野 ぜひそうしたいですね。学生の中には失敗を恐れる人もいるかもしれませんが、失敗が成長につながるのは人生全

いるということですね。

「家政学」には、よりよき人生を探究できる魅力がある

海野 学生・生徒がよりよき人生を歩んでいくために、これからの学生・生徒に求めたいことはどのようなことがあるでしょうか。

山形 「GRIT」という言葉がありますが、生徒には困難や失敗があっても諦めずに最後までやり抜く力を、中高6年間または高校3年間の中で身につけてほしいと思います。とくに社会に出ると往々にしてうまくいかないことがあるものですが、そこで自分で考えてどう行動できるか、その土台をつくるのが中学高校という時期だと思います。その先のステップで活躍するためにも、土台をしっかりとつくってほしいと思います。

石網 私も土台をつくり、基礎力をつくるのはとても大事なことだと思います。学生たちには卒業後、社会が多様化し、大きく変化しても柔軟に対応できる基礎力を身につけてほしいですね。ソーシャ



東京家政学院高等学校
山形 純一郎 教諭
やまがた じゅんいちろう



東京家政学院中学校
有益 万紀子 教諭
あります まきこ



学校法人東京家政学院
事務局キャリア支援室
齊藤 裕子 上席主事
さいとう ゆうこ



学校法人東京家政学院
事務局企画広報室
高野 桂一 主任
たかの けいいち

ルススキル、専門性や興味を持って取り組む楽しむ力、そういった毎日の積み重ねで少しずつ自信をつけていけば、変化に柔軟に対応できる基礎力が培えるのではないかと思います。

もう一つ、「家政学」を学ぶために入学してきた学生たちと接していて改めて思うのは、「どうすればよりよき人生を歩めるか」という視点を持って欲しいということ。これは、学生時代はもちろん、社会に出てもずっと続いていくテーマです。学生生活を通して内面的にも成長し、自己管理能力を身につけることが大切です。身近なところでは、自分が楽しいと思えることを学生のうちに探しておく、上手に息抜きができた、自己管理できるようになったり、苦しいことを乗り越える原動力になったりして、一生を通して生きやすくなるのではないかと思います。

海野 そうですね。大きく変わっていく時代に対応できる基礎を培うのは、とても大事なことです。本学の建学の精神であるKVAを体得するために「今」があるということだと思います。学びは常に続いていくものなので、学校にいる間に土台づくりをしてほしいですね。

そのために私たち教職員にできることはあるでしょうか。

石網 常日頃から思っているのは、私たちが自身が楽しく自信を持って生きているさまを、学生に見てもらおうのが大事だということです。先生だからこうしなきゃいけない、こうあるべきだと考える前に、自分自身の姿を学生たちにどう示していくかだと思います。教職員は学生にとって身近な大人ですので、悩んだり迷ったりしている姿も含めて、前に進んでいく姿を見てもらえばいいのではないのでしょうか。

山形 新型コロナウイルスという未知のウイルスを経験したことで、家政学の重要性が高まっていると感じています。数多くの女子校がある中で、本校は「家政学」を軸としてきました。ですから、今こそ原点に立ち返って、勉強もしっかりできて、家政学もしっかり学べるのが本校の魅力であることを伝えていきたいと思っています。例えば中高では毎年調理実習や割烹着を自作することを通して、衣食住に関わることで自分で行けるようになるための授業を進めています。勉強ができて自分の身の回りのこともできる、まさに「二刀流」の女性が理想像です。家

政学は料理ととらえられることもあるのですが、料理は家政学の一分野にすぎず、「ヒト」「モノ」「コト」を探究していくことで、自分が幸せになり、それを周囲に波及させていくことも含めて家政学であると、その点を伝えていきたいと思っています。

海野 「よりよき人生とは何か」という、問いを考え続けていくことができるのが





家政学の魅力ですね。明確な答えはない深い問いですが、それを探究していくことが必要だろうと思います。また、ここまでのお話でわかるように、よき生活、よき人生を見つけるという家政学の一つの方向性を共有できていることが、本院の強みではないかと思っています。

中・高・大が学院全体で連携して情報発信していくことが重要

海野 少子化の時代に、本院の魅力により広く伝えていくには、どのようなことが考えられるでしょうか。

石網 広報活動はすでにいろいろ実行されており、Webサイトの活用やオープンキャンパス、説明会、SNS、社会貢献活動など、思いつくことはほとんどカバーされています。そのほかにできることは、例えば中学校から大学までの学院内のつながりや各年代ごとのつながりなど、縦横のつながりを強化していくことでしょうか。

木村 大抵の広報はすでに幅広く行われていますので、さらに新しいことを行うとすれば、あっと驚くような斬新なチャレンジも有効なのかもしれません。もう一つは、私たち教職員がお互いどんな活動をしているのか、専門分野は何かといった情報交換を進めれば、そこから新しいアイデアが生まれたり、発信すべきポイントが見つかったりするのではないかと思います。オフィシャルな広報だけでなく、個人個人による広報の力も、思っている以上にあるのではないかと思います。

すので、さらに連携を強めて、東京家政学院大学への進学率を現状より上げていきたいですね。大学と中高で情報共有を進め、さまざまな企画を連携できれば、同じ系列の大学がある強みを中高からもっと発信できるのではないかと思います。

海野 うまく連携できる仕組みづくりを行い、有機的につながっていくといいですね。中学ではいかがでしょうか。

有益 高・大連携のプログラムに中学も参加させていただいて、人間栄養学科の大学生の取り組みとして始まった。どら焼きやおせんべいの開発に中学生も参加させてもらったり、SDGsのカードゲームを大学生と一緒に体験できたのは、有意義な取り組みでした。一緒に活動する場がもっと増えれば、生徒たちも大学が身近に感じられますので、さらに



海野 個々の教職員が社会に発信することで、本院のよさが少しずつ広がるというのは期待できそうですね。そういった意味では、学生も卒業後に学院のよさを社会に伝えてくれる可能性があるのでは、学生がよさを伝えたいようになるように、学びを充実させていきたいですね。

高野 学生自身が本院のよさを外部に伝えるということに関連して、今年1月機会を増やしたいですね。そういった取り組みを通じて在校生の満足度を高める工夫を重ねていきたいと思っています。

学生ファースト、生徒ファーストで、未来に向かって新しい時代に対応できるような学生・生徒を育てる

海野 最後に、学院改革として、それぞれの立場から取り組んでいきたい内容があれば、ぜひお聞かせください。

山形 私は入試広報という立場なので、やはり学院の魅力をしっかりと発信していきたいと思っています。多くの受験生に本校をまず知ってもらうためにも、WEBのさらなる有効活用を検討していきたいと思っています。そして、本校の教育プログラムを存分に活用して、生徒一人ひとりが主役となって将来に羽ばたいてほしいと思います。

齊藤 大学生の支援では、就職支援のプログラムだけではなく、キャリア支援に関してさらに充実させたいですね。大学に入学したときから始められる、社会に出た際を見据えた意識付けができる仕組みを作りたいと思っています。

海野 学生を単に社会に送り出すのではなく、就職支援と合わせて、そこに至るまでのキャリア（道筋）を充実させることは非常に大切ですね。

木村 コロナ禍以前に行っていた合宿を「学内交換留学」「学内訪問研修」といった形で発展させたいですね。わざわざ遠くに行くのではなく、千代田三番町キャンパスの学生が町田キャンパスで合宿してお互いに交流したり、町田キャンパス

から「学生広報スタッフ」という組織を立ち上げました。簡単に言うと、自分の大学を自慢してくれる学生たちです。その学生を育てるのが私の目の下のテーマです。まだ始まったばかりなので、多くを任せるのはまだ先ですが、オープンキャンパスの運営やSNSの運用から始めて、ゆくゆくは広報の表舞台に立つてほしいと思っています。学生たちが広報活

のよさを千代田三番町キャンパスの学生に見つけてもらうといった試みです。普段のコミュニケーションとは違う別のコミュニケーションですが、同じ大学内の安心できる環境の中で、学生がチャレンジできる機会を作りたいです。

石網 やはり一番大事なのは、教育の質の向上だと考えています。授業の時間だけではなく、日々学生と向き合い、時間をかけて丁寧に対応していくことが必要です。学生たちは学力も特性もそれぞれで、一人ひとり必要なサポートが違いますが、そこでどんなサポートができるのかを考えていながら、卒業生とのつながりも作っていきたいと思います。私が学生に毎日のように接するのは大学の4年間ですが、その後の人生も見ていくという気持ちで接していきたいと思っています。

海野 ここまでさまざまな観点からお話をうかがってききましたが、100周年を機として大学と中高がともに手を携え、東京家政学院という学び舎をこれからの100年に向けて育てていくことが大事だと思っています。そして、中高6年間・大学4年間の教育を充実させるのももちろんですが、卒業してからの学生たちを思い、未来が描けるところまでいけると思います。先輩方が培ってきた100年を大事にしなが、未来に向かって新しい時代に対応できるように生徒・学生を育てていくのが、われわれ教職員の使命です。「学生ファースト・生徒ファースト」が、今日の結論を象徴する言葉だと思います。その言葉を胸に刻み、今後学院の一員として力を尽くしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

【2023年1月収録】



動に携わる以上は、スキルや経験を与えたいので、そこは使命感を持ってやっていきたいですね。その学生たちが将来、広報に関連した職につくかどうかは別にしても、大人たちが働いている姿を早いうちから見せて、壁にぶつかって悩んでいる姿を知ってもらう機会があってもいいのかなと思います。

海野 教職員と学生と一緒に考えていくというスタイルはよいですね。学生も本院に対する思いがあるでしょうから、そのアイデアを積極的に取り入れて、成功体験をつくってあげられれば、学生と本院の間にWin-winの関係ができていくと思います。

高野 オープンキャンパスの来場者アンケートでは、ほぼ100%の方が本院のアットホームな雰囲気や、学生と教職員の距離の近さを認めています。ですから、実際に本院を訪れた人にはそのよさがきちんと伝わっていると思います。ただし「アットホームって具体的に何なの？」という点をさらにうまく言語化することが必要かもしれません。

海野 一つ一つの強みをさらに具体的に言語化することは必要かもしれませんね。中高の広報はいかがですか。

山形 中高ではブランディングを掘り下げて、学院の魅力発信につなげたいと考えています。そういった意味で、最近読売新聞や朝日新聞の教育サイトに本校の記事が掲載されるようになったのは、前進といっていると思います。広報では、例えば、生徒一人ひとりが主役になれる家政学院のオリジナルプログラムなどを受験生に伝えることに注力しています。大学との連携という観点では、家政学をさらに学びたいという生徒も一定数いま

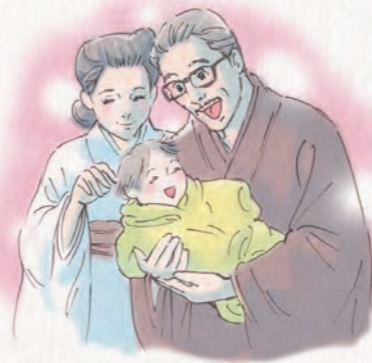
大江スミ 先生を 振り返る



「生い立ち編」

幕末の激動期を抜け、明治維新を迎えた日本。なかでも国際的な気風にあふれ、あらゆる文化に先駆けていた長崎の地で、明治8(1875)年、顔にあざを持つ一人の女の子が誕生します。

彼女の名は、宮川スミ(結婚して大江スミ)。後に、本学の創立者となる人物です。



ベッドフォード・カレッジ(現ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校)の衛生科に入学し、社会衛生学を学びます。ベッドフォードでは外部との交流が盛んに行われ、実際の世の中の様子を肌で感じながら、自由に学ぶことができました。また、留学中にイギリス以外の国々を訪れたこともスミの視野の国際化に大いに役立ちました。

学内に留まらないのびのびとした学習環境に、スミは深く感動します。



「帰国・創立編」

そして、「新しい家政学」を考えだしました。「家政学は、単に家事を学ぶことじゃない。社会や人々をしあわせにする学問なんだわ」

家庭に留まらない、「社会の中での新しい家政学」が生まれた瞬間でした。

スミの父・盛太郎は、「グラバー邸」にその名を残すトーマス・ブレイク・グラバー氏に若くして仕えた一人です。新しい日本をめざす、志ある人でした。

長崎という土地で、進取的な感性を持った両親のもと育てられたスミ。両親は、スミに自立できる教育を受けさせるため、維新後、上京を決意します。

日本初の公立小学校を卒業したスミは、両親の勧めにより、名声高いミッションスクールの東洋英和女学校(現東洋英和女学院)に入学し、キリスト教の教えにふれます。「神様は、容姿ではなく、心を見てくださるんだわ」

自分の顔のあざにコンプレックスを持っていたスミですが、次第に、未来に希望を抱くようになっていきます。

「徳性」を重んじる本学の精神は、スミのこのような実体験によるものです。

20歳で東洋英和女学校を卒業したスミは、算術(算数)の教員を務めた後、教授法を勉強するため、東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大学)に入学。27歳で卒業し、沖繩の学校に赴任します。

沖繩の女学生たちは、どんな人にも平等に、親切に接するスミを心から慕い、

このときすでに、イギリス都市部の女性たちは家庭から出て、子育てをしながら働き始めていました。その様子を目の当たりにするなかで、家事技術や家庭運営を知らないままに家庭を持ち、仕事を持つことの不安を感じました。

帰国後、スミは、諸外国での豊富な見聞をもとに、文部省の期待に応える家政学を樹立し、日本の家庭科授業を秩序立て、教師育成に尽力しました。

19年間、母校・東京女子高等師範学校で教職に就き、日本の女子教育に尽力します。そして、実に、イギリス留学から21年目となる大正12(1923)年、スミが理想とした新しい家政学を実践するため、市ヶ谷の自宅に「家政研究所」を開校します。

子どものいないスミは、「せめて、他人様のお嬢様を教育して、立派な徳操を備えた女性を養成したい」という思いを抱くようになります。

その後、イギリス留学で学んだ知識を活かし、設備の完備や、充実した講師陣を招き、大正14(1925)年に東京家政学院を設立します。

※徳操:世の中のために良い行いをしようとする心

スミは、広く「知識(Knowledge)」を開き、「技術(Art)」を磨き、知と技を使う「徳性(Virtue)」を養うことの3つを、とても大切にしていました。「K」「A」「V」で包まれた本学院の校章の图案には、

後になっても、スミとの楽しい思い出を語り継いだと言われています。

「イギリス留学編」

沖繩に赴任して1年あまりが経ったある日、東京で開かれた夏期講習会に参加していたスミに、文部省から「家政学研究所ノ為三ヶ年英国へ留学ヲ命ス」と手紙が届きました。このとき、留学した48名の中で女性スミ一人でした。

この留学での「家政学」との出会いが、後のスミの生涯に大きな影響を与えることになります。

渡英後、スミは、ロンドンのバタシー・ポリテクニク(工芸学校)(現サリー大学 家事科)に入学。そこで、洗濯や料理、裁縫、育児といった、実用的な家事知識と技術、家事教授法を身につけました。

「イギリスは設備が整っていて、たくさん実習ができる。日本でもこれを実現しなければ…」

この想いは、後の東京家政学院の新校舎の施設や設備、器具に活かされました。

明治38(1905)年、約3年にわたる留学を終えたスミは、日露戦争勃発により、帰国困難のため私費で留学を1年延期。

徳性(温かい人格)を高めることの重要性が示されています。

スミは、その後も精力的に活動を続け、亡くなる昭和23(1948)年まで、家政学と女子教育に人生のすべてを捧げました。

そして、いま、スミのめざしていた「人々のしあわせにつながる家政学」を受け継ぎながら、時代に即した教育を実践し続けてきた東京家政学院は、2023年に創立100周年を迎えます。

一人ひとりのしあわせが、社会のしあわせにもつながっていく。新しい時代に求められる「大切なこと」は、実はスミの想いの原点にあるのかもしれない。キャンパスにある、スミの胸像が微笑んでいるように見えるのは、日々家政学を学ぶ学生たちを温かく見守ってくれているからなのでしょう。



Knowledge
Virtue
Art

100th
Anniversary

大江スミが本学院を設立して100年。時代が変わってもKVA精神をはじめとする伝統は脈々と受け継がれています。人々の生活の質を高めるために、持続可能な社会を実現するために、東京家政学院は、つぎの100年もさらに飛躍します。

東京家政学院は、2023年に創立100周年を迎えました。

2023 (令和5年) 2020 (令和2年) 2018 (平成30年) 2011 (平成23年) 2010 (平成22年) 2007 (平成19年) 2005 (平成17年) 2004 (平成16年) 1999 (平成11年) 1995 (平成7年) 1994 (平成6年) 1993 (平成5年) 1988 (昭和63年) 1984 (昭和59年) 1968 (昭和43年) 1963 (昭和38年) 1951 (昭和26年) 1950 (昭和25年) 1948 (昭和23年) 1947 (昭和22年) 1939 (昭和14年) 1927 (昭和2年) 1925 (大正14年) 1923 (大正12年)

家政学の権威大江スミ、東京市市ヶ谷富久町に「家政研究所」を設置

「東京家政学院」を設立、東京市三番町に校舎が完成

「東京家政専門学校」を設置

「東京家政学院高等女学校」を設置

「東京家政学院中学校」を設置

「東京家政学院高等学校」を設置

「東京家政学院短期大学」を設置

財団法人を学校法人に改組、東京家政学院短期大学に「別科」を設置

「東京家政学院大学」/「家政学部 家政学科」を設置

「東京家政学部家政学科」に「家政学専攻」および「管理栄養士専攻」を設置

大学家政学部「住居学科」を設置、短期大学に「英語科」を設置、町田校舎を開設

大学に「人文学部」/「日本文学・文化学」を設置

短期大学「家政科」を「生活科学科」と名称変更

短期大学「別科(家政学専修)」を「別科(生活科学専修)」と名称変更

東京家政学院大学大学院 人間生活学研究科生活文化専攻修士課程を設置

人文学部に「人間福祉学科(社会福祉専攻/介護福祉専攻)」「文化情報学文化情報専攻/比較文化専攻」を設置、短期大学生活科学科に全国初の食品バイオ専攻を設置

大学家政学部児童学科を設置

大学院人間生活学研究科が男女共学となる

現代生活学部/現代家政学科・健康栄養学科・生活デザイン学科・児童学科・人間福祉学科を設置

「千代田三番町キャンパス」と「町田キャンパス」の2キャンパス制がスタート

「現代生活学部食物学科」/「人間栄養学部人間栄養学科」を設置

大学院人間生活学研究科に「家政学専攻/栄養学専攻」を設置

創立100周年

▼プロジェクト名 「子どもの感受性を育む幼児教育を広めたい！」

●クラウドファンディング実施期間... 2021年12月〜2022年2月
●プロジェクト内容... 自然の音への気づきは小さな「いのち」の存在、生活の音・自分がつくり出す音への気づきは自他の存在・環境と共にある自分への気づきです。
本研究は、耳を澄ます経験等を保育環境構成に組み込むことにより、生活や遊びの中で子どもの多感覚的な認知や感受性が育っていくプロセスを解き明かすプロジェクトです。



チャレンジャー 吉永早苗 現代生活学部 児童学科 教授

本学では2021年9月、日本初の学術系クラウドファンディング事業を運営するアカデミスト株式会社とクラウドファンディングサービスのパートナーシップに関する契約を結びました。これは、研究内容に賛同した方々から寄付金を募るクラウドファンディングで、3名の教員がチャレンジし、目標額以上の支援を受け取ることができ、研究に役立っています。

▼プロジェクト名 「ポリ乳酸繊維の活用で、衣服の環境負荷低減へ！」

●クラウドファンディング実施期間... 2021年12月〜2022年2月
●プロジェクト内容... ファッション産業は、生産・流通・消費・廃棄の各段階において多くの問題を抱え、環境負荷が大きい産業であると言われています。本研究では、生分解性のポリ乳酸繊維に着目し、特殊加工を施すことによる生分解性の促進や染色性に関する研究を進めています。基礎研究とその応用作品の制作展示を通して、



チャレンジャー 花田朋美 現代生活学部 生活デザイン学科 准教授

●花田朋美准教授コメント... 皆様からの温かいご支援により、無事ゴールを達成することができました。心から感謝申し上げます。更に、気持ちを引き締めて、丁寧な仕事を心掛け進めて参ります。ありがとうございました。

詳細はこちら



詳細はこちら



▼プロジェクト名 「つかみ食べ」が感受性を育む？子どもが主体的に食と関わる場をつくりたい！」

●クラウドファンディング実施期間... 2022年8月〜10月
●プロジェクト内容... 「食べることは生きること」「生きることは食へること」、そのいずれもが今、大きく揺らいでいます。本研究では、人生の出发点でもあり、離乳過程にある子ども(0〜1歳)が食べることを楽しみあらい、称えあう姿、そして、変化(発達)する姿を解明することから、人間のダイナミックな食の世界を理解する糸口にしたいと考えています。
●酒井治子教授コメント... 初めてのクラウドファンディングでしたが、コロナ禍において「まだまだ、チャレンジできるんだ」「新しい世界を見てみたい」等、この研究に共感をいただき、多くのエールをいただき、喜びを感じ、励みを感じ、ありがとうございました。



チャレンジャー 酒井治子 人間栄養学部 人間栄養学科 教授



詳細はこちら



今後も先生方のチャレンジを支援してまいります。応援よろしくお願ひいたします。

東京家政学院大学HP 学術系クラウドファンディングページ



家政学院のいま

東京家政学院から、この1年のニュースを皆さまにお届けします。

東京家政学院大学名誉教授の江原絢子先生は、2022年5月14日、民俗学的分野・博物学的分野の研究に顕著な業績のあった研究者に贈られる「南方熊楠賞(人文部門)」(和歌山県田辺市・南方熊楠顕彰会主催)を受賞しました。授賞式は、同日午後1時30分から紀南文化会館(和歌山県田辺市)で開催され、式後には江原先生の記念講演「自然を尊重するなかで育まれた日本の食が行われました。」
南方熊楠賞は、1990年10月、南方熊楠翁(1867〜1941)の没後50周年を記念し、市民(和歌山県田辺市)の誇りとして翁の偉業を称え制定されたものです。例年は、人文部門と自然科学部門から概ね交互に年1名選出されますが、初期には一度に両部門が受賞したため、2021年度までに34人が受賞しています。女性の受賞者は、バーバラ・ルーシュ氏(第1回)、鶴見和子氏(第5回)、北原糸子氏(第30回)に続き、江原先生は4人目の受賞となりました。
第32回南方熊楠賞選考委員会によると江原先生の研究は、「調理という作り手の視点から日本の食文化を深く探究し、学術領域として確立することに大きく貢献した。さらに、学会活動を先導し、地方、女性、次世代の研究者養成に大きく寄与している」と評価するとともに、「人びとの暮らしのまわりに広がる文化に対して文献渉猟と現地観察を徹底するスタイルをとっており、その点で南方熊楠の精神に通じている」と選考理由を公表しています。
また、同選考委員会の赤坂憲雄委員長(学習院大学教授)



は、選考報告の中で、江原先生は、「料理書に記載された料理を再現し、実際に目でみて味わうことにより、料理書それぞれの性格をも明らかにすることに成功した。とりわけ、『大江文庫』(東京家政学院大学附属図書館所蔵)の研究は、『和食』のユネスコ無形文化遺産登録

01 江原先生

南方熊楠賞受賞

と関連する調理文化研究の1つとなつていると紹介しています。
江原先生は受賞に際して「調理に関する実践を通じた研究をしていくなかで、江戸時代の本草書や料理書などに出会い、それに魅せられて江戸時代・近代を中心とした食の文化が研究の中心となりました。そして、料理書を調査し、その再現を重ねてみると、各料理を工夫した人びとの声なきこえてくる気がいたします」とコメントされています。

江原先生は、島根県生まれ。お茶の水女子大学家政学部で食物学を学び、名古屋大学で博士(教育学)取得。併設高校を含む高等学校の教諭を経た後、東京家政学院大学家政学部で約30年間教壇にたち、この間、家政学部長などの要職に就任。退職後、名誉教授・客員教授として、本学の学生の教育にあたり、とともに、若い研究者の支援等を行っています。現在、本学では、国文学研究資料館文部科学省補助事業「日本語の歴史の典拠の国際共同研究ネットワーク構築計画」に参画するための本学専門委員として、また、学院創立100周年記念誌刊行委員として活躍されています。

大学HPに記念講演動画を掲載
YouTube (R4.12.21)



03 LCA国際学園との教育連携

2022年9月13日(火)、LCA国際学園(小学校・附属プリスクール)と協定締結を行いました。LCA国際小学校は、2008年に構造改革特区制度を活用した小学校として認可を受け、本格的にバイリンガルを育成する全国で唯一の学校です。

早速、教育連携活動として、LCA国際小学校の町田キャンパスの初訪問が行われました。目的は、子どもたちに大学の学びの場を提供すること、学生には、子どもへの理解と援助を育む心を養うことです。両日ともに、午前・午後12つのグループに分かれて活動しました。

10月18日(火) 1年生54名
「森の宝探し、町田の自然と触れ合おう！」

(佐藤冬果先生担当)
「良い姿勢で上手に走ろう！」

(松山直輝先生担当)
10月20日(木) 2年生48名

「音あそび音楽あそび」(吉永早苗先生担当)

「お空に絵を描こう」(立川泰史先生担当)



生徒たちも学生と楽しく賑わいながら活動し、キャンパスに子どもたちの笑い声が響き渡り、日常のキャンパスとは異なる新鮮な2日間となりました。終了後の子どもたちからは、「また活動したい」「楽しかった」などの感想があり、小学校に戻ってから他の先生に、当日の様子を話すなど、大変盛り上がりつつあります。小学生と関わる児童学科の学生、また指導する教員ともに、新鮮な学びの1日となりました。



04

課題研究発表会

2022年11月23日(水・祝)、町田キャンパスロースコートで、2022年度「私の課題・研究発表会」が行われました。この会は、連携校の高校生が、日頃の学校生活の中で取り組んでいる様々な学びや課題について、本学の学生の研究と発表し合う場です。

1. 光明学園相模原高校「クリハラリスの分布を拡げないために」
2. 愛川高校「変化と窮地の共存」(英語スピーチ発表)

05

「探究」をテーマにした総合型選抜試験〈探Q入試〉をスタート

今年度、「探究」をテーマにした新しい総合型選抜試験〈探Q入試〉を開始しました。従来の「学び探究型」「課題探究型」「探究活動報告型」に、新たに「自己探究型」を加え、さまざまな探究に取り組む4つのタイプになりました。

「自己探究型」で参加が必要な自己探究イベント・在学生とのワークショップはオーブンキャンパスで実施し、在学生自身が乗り越えてきた悩みやその解決方法についてプレゼンテーションを行い、参加者はそれらに自ら置き換えて考え、自身の考えを

他の参加者と共有していくユニークな内容となっています。エントリー時にはワークショップ等を参考にレポートを作成し、提出します。

この他、オーブンキャンパスの体験授業に参加しワークショップを提出する、各学科の課題に取り組む、高校時代の探究活動・部活動等の取組についてプレゼンテーションを行うなど、それぞれ特徴的な内容となっており、受験生が取り組みやすいタイプを選択できることが特徴です。

質疑応答では、発表ごとに活発な意見交換が行われ、特に愛川高校の生徒の発表後には、本学のネイティブ教員からの質問があり、生徒との流暢な英語で質疑応答が交わされたことが印象に残りました。



08

キャリア形成インターンシップ

今年度から、ライフキャリア形成を目的として地域社会での課題解決能力を成長させる低学年向けのインターンシップ「キャリア形成インターンシップ」を実施しました。対象は全学科の1、2年生。今年度は一般社団法人コミュニティネットワーク協会に協力いただき、2022年8月22日から26日までの5日間、13名の学生が参加しました。一般社団法人コミュニティネットワーク協会は、多世代、多様な人々が共に暮らし、交流するコミュニティの創出を狙いとする団体です。今回は、その事業の1つである多摩ニュータウン



ン松が谷団地にあるコミュニティブレイクスマツまるにて、各店舗での職場体験、団地プロデューサー養成講座の受講などの活動を行いました。活動の中では社会人の方々のグループワークや、地域の方々へのヒアリング調査など低学年ではなかなか体験できない経験をさせていただきました。参加した学生からも、「様々な方々と接する機会があり今後のキャリアについて見直すきっかけになった」「社会人の積極性を見て勉強になった」「今後大学で勉強していく中で別の視点での考えを学ぶことができた」など好評でした。

今後もキャリア支援室では、低学年からのキャリア支援を強化し、4年間一貫して学生に寄り添う支援を行っていきます。

06 芸術文化鑑賞会

国際交流センター主催の「芸術文化鑑賞会」は、留学生が日本文化への理解を深めることを目的に毎年行われている行事です。令和4年度のテーマは「パスツァー&博物館めぐり」です。10月16日、留学生6名、引率教員2名が2階建て観光バスで、東京タワーや銀座、虎ノ門ヒルズなど東京の名所を散策し、東京の魅力改めて発見しました。その後、東京を中心とする101の美術館・博物館の入場券「ぐるっとパスカード」を利用し、各自で博物館めぐりを行いました。



07

3年ぶりの海外研修を英国で再開！ 大江スミ先生ゆかりの大学で充実の2週間

2022年9月3日から17日までの2週間、共通教育科目「異文化交流a(旧名「海外研修」)」で、英国研修を実施しました。コロナ禍が長引く中、入念な準備を経て3年ぶりの海外研修再開です。「学生時代に絶対に海外留学したい！」という熱い思いの学生6名が参加しました。

研修先のリージェンツ大学は、ロンドンの中心部に位置しており、創立者大江スミ先生が学んだベッドフォード大学の美しいキャンパスを継承しています。そこで学生達は、寮に滞在しながら、英語を勉強し、英国文化を体験しました。

英語はレベル別のクラスで、様々な国の

学生と一緒に学びます。英語での授業に最初は苦労もありましたが、寮で他国の学生と交流する機会にも恵まれ、だんだんと英語を使うことが普通になっていきました。また、文化研修では、観光で行かないようなスポットを見学し、滞在しなければならなかったロンドンの顔を知ることができました。

9月10日(土)には、ロンドンから電車で40分ほどのところにあるロンドン大学ホロウェイ校を訪れ、現地の学生にキャンパスを案内してもらいました。この大学は大江先生留学先の後継校ですが、伝統的で巨大な建物群と広大なキャンパスには、た

だ圧倒されるばかりでした。空き時間には、それぞれが決めたテーマ(建築物、スーパーマーケット、大英博物館など)にそって街へ出かけるなど忙しく過ごし、充実した、そして何よりも楽しかった2週間を終えました。



13 第58回常磐祭 第2部文化祭

2022年10月1日、2日、常磐祭第2部・文化祭を実施しました。今年度は3年ぶりに2日間開催での実施となり、当日のクラブ発表は去年までの動画形式ではなく、対面で実演することができました。天候にも恵まれ当日のトラブルも文化祭後の感染拡大もなく終えることができました。



12 第58回常磐祭 第1部体育祭

新型コロナウイルス感染症の流行後初となる全校での体育祭が2022年9月14日に開催されました。全校一斉の入場行進から始まり、ユーモア溢れる選手宣誓に和み、各学年の白熱した競技に盛り上がり、中学2年生・3年生の「みのり」や高校3年生の「荒城の月」の踊りに感動し幕を閉じました。生徒同士が学年関係なく応援し合う姿はともイキキとしており、全校で行う意義を感じることでできた体育祭となりました。

14

フィンスイミング・ワールドカップ 金メダル・銀メダル獲得！

東京家政学院高等学校3年砂川海羽さんが、フィンスイミング・ワールドカップに出場し、50m×4×1000で金メダル、Surface 4×100で銀メダルと輝かしい成績を収めました。砂川さんご本人からコメントをいただいております。

▼砂川海羽さん

私が先日出場したワールドカップは、2022年9月3日、4日に、タイのブリークで開催されました。9月1日に日本を出国し、7時間を超えるフライトで遠征1日目が終わりました。2日目は、公式練習でした。初めて世界の選手の練習する姿を見て圧倒されました。同じ17歳以下のユースの選手でさえ、身体が大きく、筋肉のつき方もまるで自分達と違いました。3日目、4日目は、タイの気候や時差に慣れます。名前の通り水面の表面を泳ぎます。ス

てきたところでの試合当日でした。日本の試合ではあまりない当日のスケジュールの変更などを体験し、混乱もありましたが自分の力を最大限に発揮することができ、リレーで優勝することができました。

遠征を通し、英語を使つての海外選手とのコミュニケーションや食文化の違いなど、様々なことを学ぶことができました。大学生活では、海外で経験したことを活かし、自分自身も成長させたいと思います。

次にフィンスイミングについて詳しく紹介いたします。足ヒレを使用して水面・水中を進むスポーツです。フィンには、ビーフィン(片足ずつ履く2枚フィン)とモノフィン(両足そろえて履く1枚フィン)があります。モノフィンは種類が二つあり、一つ目がサーフィスです。呼吸法としてシュノーケルを使用し



タート、ターンを除いて(スタートターン時15mまでは潜水可能)身体の一部が水面から出なければならないかもしれませんが、腕のかき方は自由です。二つ目がアブニアです。アブニアは潜水競技です。距離は25mか50mのみで競います。呼吸をしないので、シュノーケルもつけません。無呼吸での危ない競技なので、14歳以上の選手のみアブニア種目に出場することができます。ビーフィンは、国際ルールに則ったCMASビーフィンを使用してクロールを泳ぎます。

フィンスイミングは、現在「第二のオリンピック」と呼ばれるワールドゲームズの正式種目の一つであり、世界中で人気の高いスポーツです。今後、日本での認知度アップを期待しています。

15

中学バドミントン部 都大会優勝！

東京家政学院中学校バドミントン部が、東京都大会優勝と輝かしい成績を収めました。中学バドミントン部顧問の鷹谷恵子先生からコメントをいただいております。

▼鷹谷恵子先生

ごきげんよう。中学バドミントン部です。2022年11月23日に行われた、第65回東京都中学校バドミントン大会で、中学2年の小

野高美月・井上咲良ペアがダブルスで優勝し、東京都1位となりました。2人ともごく普通の笑顔の絶えない元気な中学生ですが、コートに入るととても頼もしいです。ほぼ毎日高校生と一緒に練習し、中学生の部員同士も切磋琢磨して頑張っています。今回、横断幕を作つて頂きとても励みになります。次の目標は全国大会に出場することです。どうぞ応援よろしくお願いします。

09

第58回KVA祭

実行委員会のコラボによるプレゼント抽選会、大

江スミ記念ホールでは俳優「瀬戸康史」さんによるトークショーなど、来場者の皆さんの笑顔で溢れた1日となりました。

3年生を中心とした実行委員は、対面での学園祭を経験しておらず、準備や当日の状況が分からない中で、企画から準備運営を進めました。課題や改善点もありましたが、対面での学園祭を通して、キャンパスを超えた学生間の交流や経験を得ることができました。この経験を来年に引き継ぎ、より多くの笑顔の花を咲かせてほしいと思います。



2022年11月12日(土)、第58回KVA祭を町田キャンパスで開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりに対面での開催となり、約1000名の来場者をお迎えすることができました。

今年のテーマは「A smile blooms」笑顔の花をさかせよう。ここ数年、中止やオンラインでの開催が続いた学園祭。これまでの大学生活において我慢せざるを得なかった分、楽しいものにした。また、学生・教職員・地域の方・他、来場者全ての方の笑顔が咲いて欲しいという願いを込めました。

今年度は、感染症拡大防止の観点から、参加団体を学内団体とし、来場規制や飲食等の制限もありましたが、クラブ・サークル、学生有志、教職員有志など計17団体がそれぞれの個性を活かした企画で出展しました。その他中庭ではアンパンマンショーやお笑い芸人「さんぼ」さんと

10

クリスマスイルミネーション



毎年恒例の、学友会主催クリスマスイルミネーションを今年も町田キャンパス、千代田三番町キャンパスの両キャンパスで実施しました。ロビー、エントランスに加えて、写真スポットも用意したことで、たくさんの学生が写真を撮る姿も見られました。新型コロナウイルス感染症の影響により、学友会の活動も思うようにできなかった学生のみならず、少しでも思い出に残る場面になったことを願っています。

11

全国大学コンソーシアム 吉武理事長 基調講演

「地域の持続可能性と大学の未来」

2022年10月15日(土)・16日(日)に、東京たま未来メッセで第19回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが開催され、本学院の吉武博通理事長が基調講演を行いました。

今回のコンソーシアムのテーマは「高等教育の充実と地域社会の発展を目指して」で、「地域の持続可能性と大学の未来」という吉武理事長の基調講演に続いて、文部科学省の古田和之次官教育・入試課長による文教行政報告、吉武理事長もパネリストとして加わつてのシンポジウム「大学コンソーシアム八王子による地域貢献と教育」などが行われました。

会場となった東京たま未来メッセはフォーラム開催前日の10月14日に小池百合子東京都知事隣席のもと開業式典が実施されたばかりで、本フォーラムはそのこけら落としというべきイベントとなり、八王子市長も出席され、八王子の伝統芸能である車人形なども披露されました。

コロナ禍で大学改革に関する多くのイベントが中止になったり、オンラインで開催されたりするなか、久しぶりに対面で開催された本フォーラム。全国の大学関係者の貴重な交流の場となりました。





ハロウィン



設計製図演習

KVA祭



臨床調理実習



秩父調査旅行



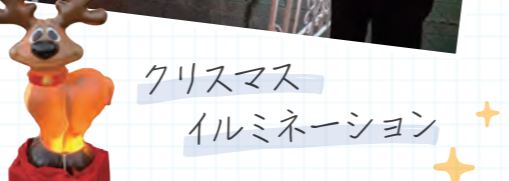
クリスマスミニコンサート



ゼミのクリスマス会



WINTER



クリスマスイルミネーション



大学卒業式



町田キャンパス内



SPRING



高校



中学校



大学

入学式



中1オリエンテーション (大房岬海岸園地)

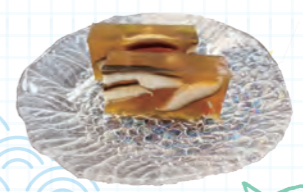
CAMPUS GALLERY



真夏の森の幼稚園



学内の森からとった笹で七夕祭りの準備



しいたけを使ったレシピ開発



高3修学旅行(長崎)

学校の近くのアイス屋さん



SUMMER

ハンドクラフト演習



児童学実習室 オムツ交換練習



※本ギャラリーは2022年1月~12月に撮影した写真です。



和風のポーロ「松風」



お話を伺った方
宝来屋本店店主
大井岳人様

近隣の お店紹介

和菓子宝来屋 本店

老舗の和菓子店である宝来屋さんは、明治元年創業の歴史ある和菓子店です。本学院とも長年にわたってお付き合いがあるお店ということで、学院創立100周年の機会に、訪問させていただきました。

—— 中学の生徒は、千代田区を第二のふるさととする活動の一つとして行っている地域密着のプロジェクトの一環でお伺いさせていただきました。大学の学生の考案メニューはいかがでしたか。

学生さんが考案した数種類のレシピの中から、一緒に考えて採用したのは、北海道のこだわりの材料を使ったうぐいす餅と皮には日本茶の茶葉を入れたどら焼きで、とてもおいしくできました。

—— 本学院とも、長年にわたってお付き合いを頂いていますが、どのような関わりが印象に残っていますか。

家政学院さんは、中高の常盤祭や東京体育館での体育祭に紅白まんじゅうをお届けするなど、行事での関わりが多いですね。大学には茶道部の上生菓子をお届けしています。特に印象に残っている交流としては、中高の生徒さんや、大学の学生さんとの授業の一環としての関わりですね。中学の生徒さんは、取材をして、お店のポスターを作ってくれました。最近の活動で印象的だったのは、大学の人間栄養学科の学生さんが考案したレシピで、どら焼きを作ったことですね。

—— 2階が吹き抜けの喫茶室になっていて、とても素敵な社屋ですが、長年変わらずこの土地で営業されていらっしゃるのでしょうか。

この社屋は2010年に建替えて、今年で13年目になりますね。この場所が堀田撰津守のお屋敷だった頃にこの場所を創業して以来、現在も工場も含めてこの土地にあります。現在は6名の職人と店舗に3名、配送担当と私の合計11名体制で営業しています。



—— 宝来屋さんのお菓子は、いつも私たち学院の傍にあり、学院の想い出の味として受け継がれています。宝来屋さんの今後に向けての抱負などございますか。

時代に合せて変わっていくことも必要です。和菓子作りは、材料が時代によって変わってきますが、その時代その時代より良いものを選びながら伝統を大切にして作っていきたくと思っています。また、現在、新たな取り組みとして、デリバリーサービスを利用したりしています。

—— 老舗の宝来屋さんの「時代に合わせ進化していく」というお話は本学院の今後とも共通するようになってきました。これからも、本学院を見守っていただきたいと思います。



店舗情報
〒102-0074
東京都千代田区九段南2-4-15
TEL: 03-3261-4612
HP: wagashi.houraiya.co.jp
twitter・instagram: @kudan_houraiya

WHO'S WHO

社会で活躍している卒業生に、
建学の精神を今どのように感じているかインタビューしました。



KVAは、人として生きていく上で
とても大切な三本柱

現代生活学部 食物学科卒業 小林 由佳さん

神奈川県相模原市立中学校
家庭科教諭・特別支援学級担任

私は、2022年に本学を卒業し、現在は、神奈川県相模原市の中学校に勤務しています。家庭科教員でありながら、担任も持ち、部活の顧問もしているのですが、忙しいですが、充実した毎日を送っています。在学中は、先生方と距離が近く、何でも相談できたことが、とてもいい思い出です。今は学院創立100周年ということで、本当におめでとうございます。創立以来受け継がれている本学の

KVA精神とは、人間として生まれて、生きていく上でとても大切な三本柱だと思います。私自身、KVA精神を大切にしており、現在は、教員という職業柄、特に「V・徳性」については生徒たちにも大切にしたいと伝えています。「K・知識」を持っていても「賢い悪魔」になつてはいけないうい、知識を正しく使える人になるように指導しています。今後の学院のさらなる発展を祈念しています。



大学で磨かれたKVA精神は
日々の原動力につながっています

現代生活学部 健康栄養学科卒業 (現: 人間栄養学部 人間栄養学科) 藤田 愛さん

公益社団法人 東京都教職員互助会
三楽病院/病院管理栄養士

東京家政学院100周年、おめでとうございます。私は、病院で管理栄養士をしながら、現在は本学大学院でも学んでいます。大学で専門知識の習得だけでなく、かけがえない友人や恩師に出会うことができたことは、私の宝物です。私にとってKVA精神とは、日々の原動力となるものであり、社会に出てからも病院管理栄養士として様々な認定資格を取得し、できるだけ最新の情報を得たい

と思う気持ちにつながっています。その精神は患者様で何ができるかを探していく力や、多職種間でコミュニケーションをとるチーム医療の場でも活かされていると思います。大学は、思い描いている将来の夢にぐっと近づく場所でもあり、思いがけない出会いや発見ができる場所でもあります。これからも多くの学生の夢を見守る学院であり続けてください。

東京家政学院大学 2024年度 入試日程

入試種別	総合型選抜 探Q入試 (学科探究型)			総合型選抜 探Q入試 (自己探究型)				総合型選抜 探Q入試 (課題探究型・探究活動報告型)						
	I期		II期		III期		IV期		I期		II期			
出願期間 ※1	10月13日(金)～10月20日(金)		10月13日(金)～10月20日(金)		10月13日(金)～10月20日(金)		10月13日(金)～10月20日(金)		10月25日(水)～11月2日(木)		11月13日(水)～12月7日(木)		2月28日(水)～3月7日(木)	
試験日	別に定められた出願前の面談日 (※総合型選抜 探Q入試は別途定められたエントリー期間でのエントリーが必須です。詳しくは大学案内2024入試ガイドをご覧ください。)													
入試種別	学校推薦型選抜				一般選抜				大学入学共通テスト利用選抜					
	I期		II期		A方式I期 (KVAスカラシップ型)		A方式II期		A方式III期		B方式		I期	
出願期間 ※1	11月1日(水)～11月9日(木) 窓口:11月10日(金) ※2		12月1日(金)～12月7日(木) 窓口:12月8日(金) ※2		12月20日(水)～1月10日(水) 窓口:1月11日(木) ※2		12月20日(水)～1月23日(火) 窓口:1月24日(水) ※2		12月20日(水)～1月26日(金) 窓口:1月29日(月) ※2		2月13日(火)～2月22日(木) 窓口:2月26日(月) ※2		1月15日(月)～1月26日(金) 窓口:1月29日(月) ※2	
試験日	11月18日(土)		12月16日(土)		1月20日(土)		2月1日(木)		2月7日(水)		3月5日(火)		1月13日(土)、14日(日)	
入試種別	大学入学共通テスト利用選抜		特別選抜試験 (社会人・海外帰国子女)		私費外国人留学生試験				編入学試験・学士入学試験					
	II期		I期		II期		I期		II期		I期		II期	
出願期間 ※1	1月15日(月)～3月1日(金) 窓口:3月4日(月) ※2		11月6日(月)～11月15日(水) 窓口:11月16日(木) ※2		2月1日(木)～2月8日(木) 窓口:2月9日(金) ※2		10月10日(火)～10月20日(金) 窓口:10月23日(月) ※2		1月15日(月)～1月26日(金) 窓口:1月29日(月) ※2		11月6日(月)～11月15日(水) 窓口:11月16日(木) ※2		2月1日(木)～2月8日(木) 窓口:2月9日(金) ※2	
試験日	大学入学共通テスト 1月13日(土)、14日(日)		11月25日(土)		2月22日(木)		11月25日(土)		2月22日(木)		11月25日(土)		2月22日(木)	

※1 出願期間は、郵送での受付期間(最終日の消印有効)を表します。
 ※2 窓口受付は、千代田三番町、町田の両キャンパス(10:00～15:00)で行います。
 注: 12月26日(火)～1月5日(金)は冬期休業期間のため、入試に関する問い合わせ等はできません。

大学入試の最新情報はこちら



お問い合わせ先 東京家政学院大学 アドミッションオフィス 〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地
 TEL 042-782-9411 FAX 042-782-1711 E-mail nyushi@kasei-gakuin.ac.jp

東京家政学院大学 2023年度 オープンキャンパス日程

日程	時間	場所	テーマ
1 5月 7日(日)	10:00～14:00	町田キャンパス	大学案内2024完成! 大学を知ろう!
2 5月14日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	
3 6月11日(日)	10:00～14:00	町田キャンパス	学科を知ろう!
4 6月25日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	学科探究day! 学科を知ろう! (探Q入試「学科探究型」連動イベント)
5 7月23日(日)	10:00～15:00	町田キャンパス	自己探究day! 自分を知ろう! (探Q入試「自己探究型」連動イベント)
6 7月30日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	自分を知ろう!
7 8月 6日(日)	10:00～15:00	町田キャンパス	学び探究day! 学びを知ろう! (探Q入試「学び探究型」連動イベント)
8 8月20日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	学びを知ろう!
9 9月17日(日)	10:00～15:00	町田キャンパス	入試対策講座!
10 9月24日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	
11 3月17日(日)	10:00～14:00	町田キャンパス	大学を知ろう!
12 3月24日(日)	10:00～15:00	千代田三番町キャンパス	

※ ローズ祭(6月18日(日))、KVA祭(11月11日(土))でのコラボオープンキャンパスを予定しています。
 詳細は、随時本学ホームページでお知らせしますのでご確認ください。

オープンキャンパスの最新情報はこちら



お問い合わせ先 東京家政学院大学 アドミッションオフィス 〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地
 TEL 042-782-9411 FAX 042-782-1711 E-mail nyushi@kasei-gakuin.ac.jp

東京家政学院中学校・高等学校 2023年度 校内説明会日程

日時	内容
1 4月29日(土) 10:00	第1回学校説明会
2 6月 4日(日) 10:00	第2回学校説明会
3 7月16日(日) 10:00	第3回学校説明会
4 8月23日(水) 10:00	第4回学校説明会
5 9月18日(月祝) 10:00	第5回学校説明会
6 10月22日(日) 10:00	第1回入試対策説明会
7 11月11日(土) 14:00	第2回入試対策説明会
8 11月26日(日) 10:00	第3回入試対策説明会
9 12月10日(日) 10:00	第4回入試対策説明会
10 12月17日(日) 10:00	5年生以下対象 クリスマスイベント
11 1月 7日(日) 10:00	第5回入試対策説明会
12 1月13日(土) 10:00	適性検査型入試対策 / 新タイプ入試対策
13 2月25日(日) 10:00	5年生以下対象 体験イベント

日時	内容
1 6月11日(日) 10:00	第1回学校説明会
2 7月23日(日) 10:00	第2回学校説明会
3 8月26日(土) 10:00	第3回学校説明会
4 9月17日(日) 10:00	第4回学校説明会
5 10月28日(土) 10:00	第5回学校説明会
6 11月 4日(土) 14:00	第6回学校説明会
7 12月 2日(土) 10:00	入試相談会
8 12月 9日(土) 14:00	入試相談会

※ 説明会は全てWeb予約が必要となります。※ 入試日程はホームページをご覧ください。
 ※ Web学校説明会のスケジュールは、ホームページで随時更新します。

高校入試の最新情報はこちら



高校説明会の最新情報はこちら



お問い合わせ先 東京家政学院中学校・高等学校 入試事務局
 〒102-8341 東京都千代田区三番町22
 TEL:03-3262-2559(入試専用ダイヤル) FAX:03-3262-2223

中学入試の最新情報はこちら



中学説明会の最新情報はこちら



東京家政学院大学

東京家政学院中学校・高等学校

スマートフォンでQRコードを読み込み
 アクセスしていただくと、以下の手続きを行うことができます。

卒業(修了)証明書等を
 申し込みたい



大学案内・大学院案内を
 取り寄せたい



公開講座を申し込みたい



改姓・転居及び
 逝去について連絡したい



卒業証明書等を
 申し込みたい



学校案内を取り寄せたい



改姓・転居及び
 逝去について連絡したい



SNSの公式アカウントはこちら

Twitter



@kasei_gakuin

Instagram



@kaseigakuin_official

Facebook



@kaseigakuin

LINE



@kasei-gakuin

YouTube



東京家政学院大学
 公式チャンネル
 @user-no8yi9yz8f

Twitter



@kasei_chuko

Instagram



@kasei_chuko

YouTube



東京家政学院
 中学校・高等学校
 @user-qj9qg5dl2p

2023年度イベント一覧 ぜひお越しください!

東京家政学院大学

ローズ祭

6月18日
 千代田三番町
 キャンパス

KVA祭

11月11日・12日
 町田キャンパス

東京家政学院中学校・高等学校

体育祭
 (常磐祭第一部)

9月12日
 東京武道館

文化祭
 (常磐祭第二部)

10月8日・9日
 千代田三番町
 キャンパス



東京家政学院創立100周年記念募金

「東京家政学院創立100周年記念募金」のお願い

学校法人東京家政学院 理事長 吉武博通

日頃から東京家政学院をご支援いただいております皆様のご厚情に、心より感謝申し上げます。
本学院は、本年 令和5（2023）年に創立100周年を迎えるに当たり、創立100周年から先の学院の将来を見すえて、各キャンパスの教育研究環境をさらに整備する予定です。
また、学生・生徒が安心して学べるための新たな奨学金制度も視野にいれさらなる学院の発展を期して、「東京家政学院創立100周年記念募金」をお願いしております。いただきましたご寄付は以下に掲げる目的に活用させていただくこととしています。

- 大学、高等学校、中学校の教育施設の整備、図書館の充実
- 100周年記念奨学金基金の創設
- 100周年記念国際交流基金の創設



詳細はこちらから
ご覧ください

引き続き、学院へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 寄付金募集概要

募金名称	東京家政学院創立100周年記念募金
募金目標額	3億円
募集期間	平成27(2015)年6月～令和8(2026)年3月末日
募集口数	個人 一口3千円以上 ※一口未満のご寄付につきましても有り難く頂戴いたします。

◆ 寄付金に係る税制上の優遇措置について

個人からの本学院への寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問い合わせ先
お申し込み先

学校法人東京家政学院 募金事務局
〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
TEL:03-3262-2242 (直通) / FAX:03-3262-2271 / E-mail:bokin@kasei-gakuin.ac.jp

寄付者のご芳名について

「創立100周年記念募金」への皆さまからのご協力に対しまして、深く感謝申し上げます。皆さまから賜りましたご寄付は、有効に活用させていただきます。引き続き、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご厚意への感謝を込めて、ホームページにご芳名を掲載しています。(ご同意の方のみ)



こちらから
ご覧ください